



# 地域学校協働本部だより

令和6年5月23日発行 NO.3

港区立赤羽小学校 校長  
地域コーディネーター

中村 美奈子

石川 啓子

大鷲 淳子

袖田 正子

地域学校協働本部担当

小林 砂織

西之原 理恵子

## 母の日の玄関装飾

5月上旬に、学校玄関の装飾の貼り替えをしました。季節も初夏となり、気持ちのよい風が感じられるようになりました。学校の装飾にも初夏に美しく咲くバラやスイレン、そしてカーネーションが咲いています。空には幸福の象徴であるハトが飛び、水面には仲のよい親子のカルガモが泳いでいます。子供たちが大切な家族に日頃の感謝を伝えられるようにと、温かい気持ちを込めて作っていただきました。ご来校の際は、ぜひご覧ください。



～24 節季の話（「小満」5月21 日頃から）～

太陽の光を浴びて、草木がすくすく成長し、生い茂る季節。あらゆる生命が大地に満ち、活気が溢れていきます。秋に種をまいた麦が収穫期を迎え、農家がほっと一安心（小さく満足）することから名付けられたという説もあります。稲作農家では田植えの準備で大忙しになります。

～夏鳥の話（渡り鳥） 共生について～

皆さんのお祖父さん、お祖母さんが子どもの頃、ツバメは夏の風物詩のように5月中旬ごろに東南アジアから日本にきました。家の軒先や駐車場のコンクリートの打ちっぱなしの場所に写真のような巣を作り、子供を育てて旅立っていきました。



2020年調べては、東京で確認されたツバメの巣は、840個だったそうです。港区だけでも26万人余りの人が暮らしているのに、色々な人間の都合で、ツバメだけでなく生きづらくなっている生き物も、人も増えています。お互いが、ほんのちょっとの優しさをもてるようになるといいですね。